

シンポジウム【HBO:2度と事故を起こさない 為の安全管理・対策】

当院の第一種高気圧酸素治療時の安全確認 について

金井克好¹⁾ 廣谷暢子¹⁾ 青木理香¹⁾ 高柴國治¹⁾
土居 浩²⁾ 荒井好範²⁾

1)牧田総合病院 CE部
2)牧田総合病院 脳神経外科

当院は2021年2月に病院の移転に伴った病院システムの変更があり、高気圧酸素治療（以下、HBO）に関連する環境も大きく変化した。装置は第1種装置が3台、2022年3月にはさらに1台が増設され計4台となり、加圧方式も空気・酸素の方法が選択できるようになった。

依頼される診療科の件数も多くなり、治療を施行する臨床工学技士（以下、CE）・は今一度、安全管理に関してより一層の管理を考えなくてはいけない時期を迎えた。

当院の運用について、依頼医師が治療に関しての禁忌・禁忌薬・相対禁忌項目の確認し結果をオーダーに記録。同時に問診や同意書の記載を行いHBOスタッフに引き継ぐ。初回の予約と同時にHBOスタッフが概要及び持込禁止物品について、当院で作成した説明案内書を用いて説明している。

持込禁止物品の内容については、日本高気圧環境・潜水医学会や安全協会の出版物を参考にしているが、判断に迷うような物品についてはメーカー等に確認し、当院での専門医を含めた安全管理委員会よりの指示にて確認表を作成し、それを参考に患者に説明し確認をしている現状がある。

治療当日の確認方法は、外来患者等、意識・認識レベルがしっかりしている患者については言葉の確認と目視・ボディタッチ等で確認。入院患者で意識レベル低下・認知症・重度の体幹機能障害患者については治療衣の中も目視で確認している。しかし治療開始した患者に対し、絶対に何も所持していないかと問われれば不安はある。

一連の安全確認方法について簡単に現状をまとめましたが、改善・改良点は考えられる。各施設により抱え

ている問題も異なると思うが、患者に対応するスタッフは全ての物品の判別や対処が出来なければならない。この部分が事故における最終ラインになり、運用における安全管理の根幹の部分である。治療に携わる全国のスタッフが詳細な内容の共通認識が必要であるため、そのためにどう改善するか、今後の我々の課題であると考えている。